

佐渡米通信 こめ〜る 4月号



JAグループ新潟 売れる米づくり・水田フル活用推進集会

3月2日に、新潟テルサで「JAグループ新潟売れる米づくり・水田フル活用推進集会」が開催され、米生産者とJA役職員合わせて1,400名が一堂に会しました。JA佐渡からは35名が参加し、新潟米の更なるシェア拡大と農家の所得増大につながるよう、売れる米づくりに努めることを確認しました。

集会では、「水田農業政策の課題とJAグループの役割」をテーマに、東京大学大学院農学生命科学研究科教授 鈴木宣弘氏の講演が行われました。需要に応じた高品質・良食味米づくりと、飼料用米をはじめとした水田活用米穀等により、主食用米の価格安定と、水田の維持に努めることを確認し合う集会となりました。



JA佐渡 米穀販売課27年度体制

4月1日より、営農事業部米穀販売課の人員体制が次のとおりとなりました。今後ともよろしくお願ひ致します。

課長 渡部 学
主任 渡辺 秀和 主任 田中 照美
担当 山田 慎 担当 駒形 憲昭
担当 買 若梅 担当 藤井 優磨



3月5日に、若手農業者及び関係者など35名が参加し「佐渡若手農業者の集い」が開催されました。

この集いは、近年増えている島外からの新規就農者や農業法人等への就農者同士の交流と、先進農家との意見交換を行い、参加者の意欲と技術の向上を図る目的で行われました。

今年から新規に就農された参加者から「佐渡市の担当の方から国の給付金制度を教えてください、申請しました。現在は地域の方の農作業の手伝いもしながら農業について学び、来年からは独立する予定です。柿を中心に地域の農業後継者となれるようガンバリたい。」と話されていました



3月8日、「さわたカキまつり」が開かれ、家族連れなど約1,300人が来場されました。当日は、カキの土手焼き・カキ汁・カキ飯(朱鷺と暮らす郷米使用)のセット1200個があったという間に完売し、特産品販売や郷土芸能の上演もあり、会場は熱気に包まれていました。



JA佐渡「佐渡米生産者大会」

3月7日、「佐渡米生産者大会」が開催され、農家・関係者総勢400名が参加しました。

この大会では、平成26年産米の品質・食味の結果を踏まえた27年産米の品質向上策「佐渡米未来プロジェクト」の活動を確認しあいました。また、更なる佐渡米ブランド確立の為「佐渡米憲章」を策定し今後の佐渡米ブランドづくりの指標となるように、参加者全員で確認し合いました。



今年のトキの繁殖情報として・・・営巣を確認したペアは15組、そのうち抱卵を確認したペアは13組となりました。(3月末現在)



JA佐渡「高千家畜市場」

4月2日に、佐渡産和牛の本年度最初のセリ市が、佐渡市高千市場で開催されました。このセリ市は4月、7月、11月の年3回行われています。上場された牛は全国の畜産農家に引き取られ、各地のブランド牛として肥育されます。

今回は島内47名の畜産農家から計117頭の子牛、成牛が上場されました。新潟県内外の24件の購買者が参加、子牛1頭あたりの平均価格は56万円余りで、前回より5万3千円アップとなりました。畜産農家 山登忠男さんは「今回の市場は全頭が今までにない高値で取引されとても嬉しいですね。牛を飼ってから34年で初めてです。もっと牛を飼う仲間が増えてほしいですね。」と話されました。

